SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

E033 江ノ浦凝灰岩の露頭・大北横穴群(静岡県GEO DATA(25)特集：地学散歩(104))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増島, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00029286

E033　江ノ浦凝灰岩の露頭・大北横穴群

カシミール3D地図

新第三紀・鮮新世の火山岩類からなる静浦山地（通称・沼津アルプス）の山麓部には江ノ浦凝灰岩層が広く分布している．その岩相は多様で，高橋豊会員が静岡地学に投稿した地質図では，駿河湾に面して堆積する白色の凝灰岩を江ノ浦白色凝灰岩，内陸側に分布するものを長岡凝灰岩と大別している（高橋，1966）．長岡凝灰岩は熱水の影響で変色しており，褐色～緑色を呈する．

狩野川の左岸，伊豆の国市・北江間の山麓部には多数の横穴墓群が分布している．

大北横穴群は，7 世紀後半～8 世紀中頃の横穴が 40 基以上確認されている．土葬から火葬に移行する時代に作られ，火葬骨を納めた石柩も多数発見され「若舎人」と文字を刻んだものは全国唯一のものである．

横穴は，褐色に変色した砂質の長岡凝灰岩･上部層を穿って作られており，露頭観察に適している．本遺跡は国指定の文化財であり，伊豆の国市が管理しているので，常に整備されている．尾根の西側には江戸時代から昭和初期にかけて稼働していた「横根沢石切り場跡」があり，産出した石材は，江戸時代後期の三島宿に多数設置された石燈籠として利用され，現在でも三島市内の寺社で観察できる．

（増島　淳）

高橋　豊（1966）：沼津市南部静浦山地の地質．静岡地学，7, 5–9.